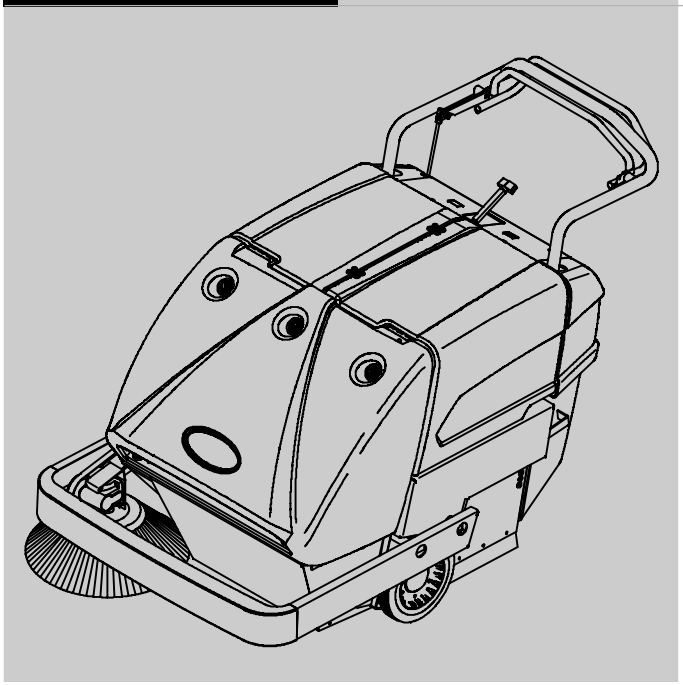
S10

スイーパー
オペレータマニュアル



Japan

www.tennant.co.jp

331584
Rev. 01 (11-2007)

このたびはS10スイーパーをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このマニュアルはご購入されたマシンに同梱されています。
操作と点検整備に関する必要な情報が記載されています。

本機を操作または点検整備する前に、このマニュアルを完全に読んで理解してください。

本機は卓越したサービスを提供します。ただし、最小のコストで最善の結果を得るためには、次の点にご留意ください:

- 十分に配慮してご使用ください。
- 点検整備の説明に従い、本機を定期的に点検整備をしてください。
- 本機の点検整備には、テナントカンパニー提供の部品、またはそれと同等のものをお使いください。

環境保護

梱包材料、バッテリーなどの使用済み構成部品、凍結防止剤や油などの汚染液体は、地域の廃棄規則に従い、環境に対して安全な方法で処分してください。常にリサイクルを心がけてください。

マシンデーター

将来参照するため納入の際にご記入ください。

モデル番号 - _____

シリアル番号 - _____

本機の付属オプション - _____

担当販売員 - _____

担当販売員の電話番号 - _____

顧客番号 - _____

納入日 - _____

Tennant Company
PO Box 1452
Minneapolis, MN 55440
電話：(800) 553-8033 または (763) 513-2850
www.tennantco.com

テナントカンパニー日本支店
〒231-0023神奈川県横浜市中区山下町
2番地産業貿易センタービル 9階
Kawasaki, Kanagawa 212-0016
電話：045-640-5630ファックス：045-640-5604
www.tennant.co.jp

Thermo-Sentry は、テナントカンパニーの米国登録商標ならびに未登録商標です。

仕様と部品は予告なしに変更されます。

Copyright © 2007 TENNANT, Printed

詳細

安全上の注意事項 2
オペレーション 5
本機の構成部品 5
シンボルの定義 6
制御機器と計器類 7
オペレーションの制御、 8
走行制御ハンドル 8
フィルターシェーカー制御スイッチ . . 8
バッテリー充電インジケーター 9
バッテリーチャージャーパネル 9
アワーメーター 10
メインブラシレバー 10
サイドブラシアーム 11
パーキングブレーキレバー 11
サーキットブレーカーとヒューズ . . . 12
ブラシ情報 12
本機の操作 13
操作前の点検事項 13
清掃作業 13
ホッパーを空にする 14
ホッパーを取り外す 15
本機のトラブルシューティング、 . . . 16
メンテナンス 17
点検整備表 17
注油 19
駆動チェーン 19
デファレンシャル 19
ブラシアームピボット 19
リアキャスター 19
サイドブラシギアボックス 20
自動調整式シーブ 20
バッテリー 21
液入りバッテリー 21
バッテリー充電 22
電気モーター 25
ベルトとチェーン 25
走行ベルト 25
走行ベルトのテンションを点検して
調整する 25
サイドブラシベルト 27
サイドブラシベルトのテンションを
点検して調整する 27
メインブラシベルト 27
バキュームファンベルト 28
バキュームファンベルトのテンションを
点検して調整する 28
車輪駆動チェーン 28
静電ドラッグチェーン 28
ブラシ 29
メインブラシ 29
メインブラシを取り外す 29
メインブラシを取り付ける 29
メインブラシ
パターンを点検して調整する 30
サイドブラシ 30
サイドブラシを取り外す 31
サイドブラシを取り付ける 31
サイドブラシを調整する 31
ゴミホッパーとダストフィルター . . . 32
ゴミホッパー 32
ホッパーと床のクリアランスを
点検して調整する 32
ダストフィルターとホッパーシールの
位置を調整する 32
サーモセントリー 33
ダストフィルター 33
ダストダストフィルターを取り外す . 34
ダストダストフィルター
を取り付ける 34
スカートとシール 35
ホッパーリップスカート 35
リアブラシスカート 35
ホッパートップシール 35
メインブラシスカートとシール 35
走行ハンドルアッセンブリー 36
走行ハンドルアッセンブリー
の高さ調節 36
本機の輸送と保管 38
本機を輸送する 38
本機の保管 38
仕様 39
本機の一般寸法/容量 39
本機の一般性能 39
動力タイプ 39
タイヤ 40
本機の寸法 40

安全上の注意事項

このマニュアルでは、次のシンボルマークにより、お使いになる方に対して注意を促しています:

⚠ 警告： 説明を厳守しないと死亡または重傷を負うことを示します。

安全のために：本機を安全に操作するうえで守らなければならない手順を示します。

次の安全警告は、作業者と機器に対して潜在的に危険な状態を示します。注意してこのマニュアルをお読みください。そして、潜在的に危険な状態の存在を認識してください。本機に装備されているすべての安全装置の場所をご確認ください。その上で、本機の運転担当員に対して必要なトレーニングをお願いします。本機が損傷したり、誤動作が生じた場合は、ただちに報告してください。本機が正常に作動していない場合は、使用しないでください。

警告： バッテリーは水素ガスを放出します。爆発や引火を引き起こす危険があります。火花や炎を絶対に近づけないでください。
充電中は、バッテリー収納部のカバーを開けたままにしてください。

⚠ 警告： 本機を点検整備する前に、バッテリーのケーブルとチャージャーのプラグを抜いてください。破損した電源コードでバッテリーを充電しないでください。プラグを改造しないでください。

チャージャーの供給コードが破損してる場合は、危険を避けるためチャージャーの製造元、サービス代理店、あるいは類似の資格を持っている人物により交換してもらう必要があります。

⚠ 警告：ゴミの詰まったホッパー。一人でとり外さないでください。腰を痛めるおそれがあります。

本機は起爆回避安全装置が付いたモーターを装備していません。電気モーターからは起動時や稼動中に火花が発生します。可燃性気体/液体、または粉塵の近くで本機を使用すると、引火や爆発を引き起こすことがあります。

安全のために：

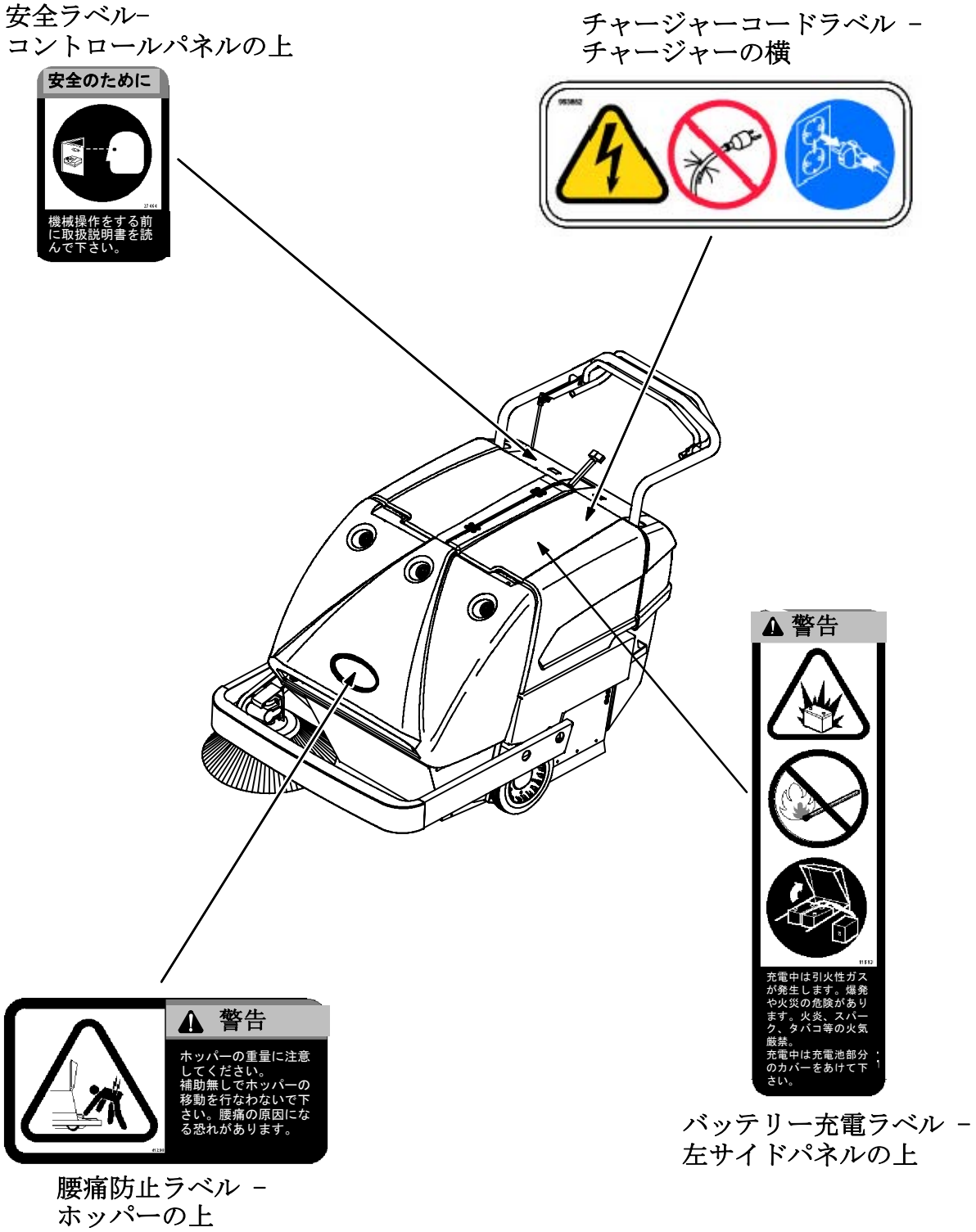
1. 次のような場合には、本機を操作しないでください:
   - 使用のトレーニングを受けておらず、許可も得ていない場合。
   - 本書を読んでいない、または理解していない場合。
   - 引火または爆発の危険がある場所。ただし、このような場所に対応する仕様になっている場合を除く。
   - **引火性物質や有毒物質、燃えているか煙をだしているゴミ、危険な埃などを吸引しないでください。**
2. 本機を操作する前に：
   - 安全装置がすべて所定の位置にあり、正常に作動することを確認してください。
3. 本機の操作中は：
   - 斜面や滑りやすい床では、本機をゆっくりと移動させてください。
   - 本機を後戻りさせる場合は、十分に注意してください。
   - **ホッパーが一杯の時に 8.75% (5°) を超える傾斜でトレーニングをしないでください。また 12.2% (7°) を超える傾斜は絶対に使わないでください。**

4. 本機から離れるときや本機を点検整備するときは：
   - 本機を水平な場所に停めてください。
   - パーキングブレーキを掛けます。
   - 本機をオフにしてキーを抜き取ります。

5. 本機を点検整備するときは：
   - 可動部に近づかないでください。大きめのだぶだぶのジャケットやシャツ、大きな袖の衣類は着ないでください。
   - 本機を持ち上げる時は、リフト専用機またはジャッキを使ってください。
   - 圧縮空気または高圧水を使う場合は、保護眼鏡または耳栓を着用してください。
   - 本機を点検整備する前に、バッテリーの接続をはずしてください。
   - バッテリー液には触れないでください。
   - 交換する部品は、テナントカンパニーが供給したもの、あるいは認定のものを使用してください。

6. 本機をトラックなどに積み込むときは：
   - 本機の電源をオフにしてください。
   - 本機の重量に対応できるトラックやトレーラーを使ってください。
   - ウインチを使ってください。積荷台が地上から380mm（15in）より高い場合は、本機を走行してトラックに積み込んだり、下ろしたりしないでください。
   - タイヤ止めで固定してください。
   - 本機を紐で固定してください。

本機の指定した場所には、次の安全ラベルがあります。ラベルが破損または読取不能の場合は取り替えてください。



オペレーション

本機の構成部品

A. フィルターカバー
B. 左側アクセスカバー
C. パーキングブレーキレバー
D. ホッパー
E. サイドブラシ
F. サイドブラシアーム
G. 右側アクセスカバー
H. 計器パネル

シンボルの定義

本機の制御機器と機能表示の識別に次のシンボルを使います:

WWW フィルターシェーカー

メインブラシ上下フロート

1 メインブラシダウン

2 メインブラシアップ

メインブラシ調整

15 A サーキットブレーカー

60 A サーキットブレーカー

アワーメーター

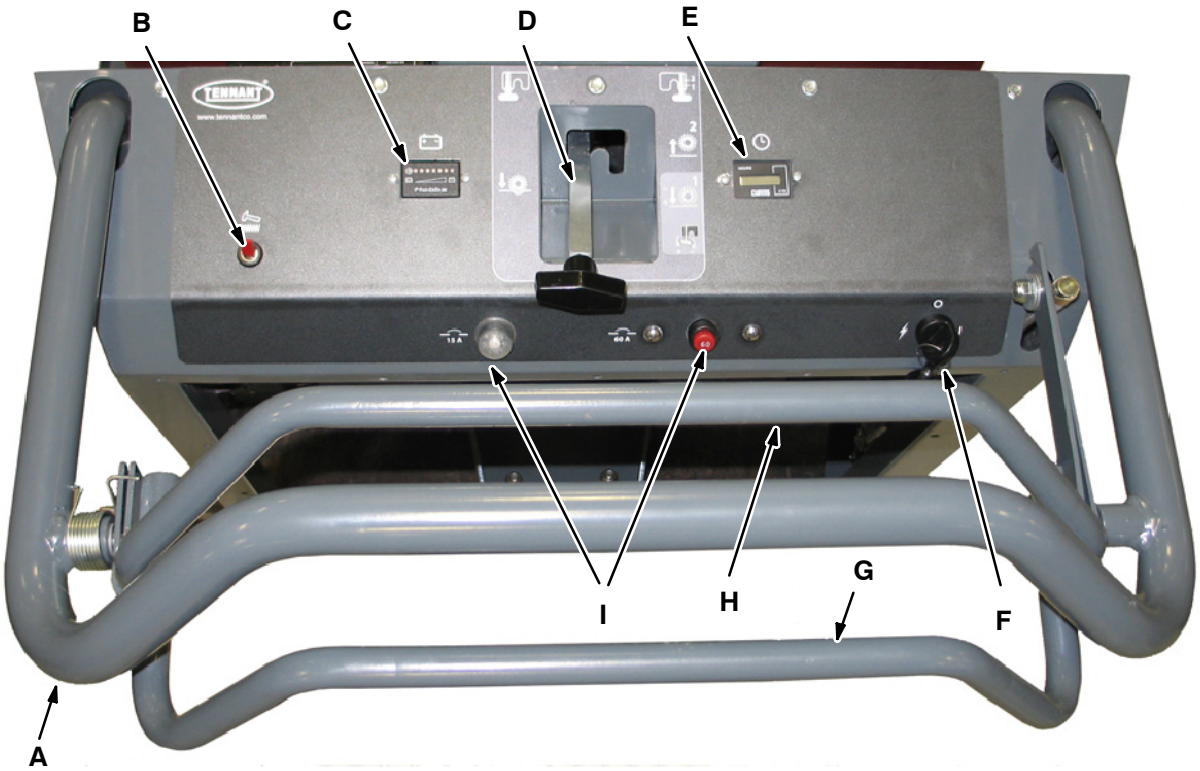
バッテリー充電インジケーター

電気キースイッチ

キースイッチオフ

キースイッチオン

制御機器と計器類



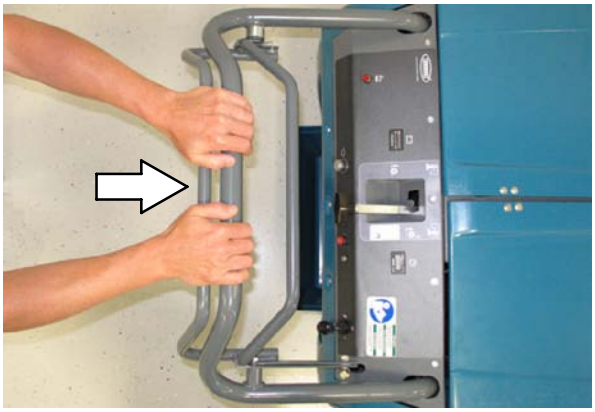
A. 静止ハンドル
B. フィルターシェーカー制御スイッチ
C. バッテリー充電インジケーター
D. メインブラシレバー
E. アワーメーター
F. オン-オフ キースイッチ
G. 前進走行ハンドル
H. 後進走行ハンドル
I. サーキットブレーカー
J. チャージャーパネル

オペレーションの制御、

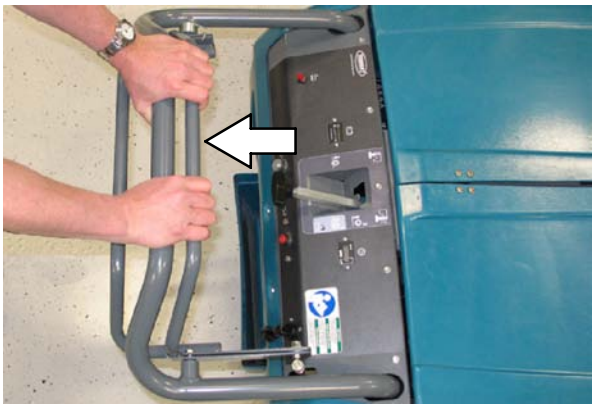
走行制御ハンドル

走行制御ハンドルは、本機の進行方向を制御します。

本機を前進するには、静止ハンドルを指で握り締め、走行ハンドルを手のひらで押します。

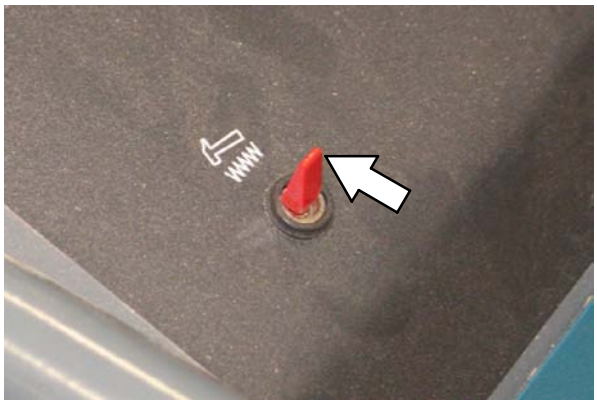


本機を後進させるには、後進走行ハンドルをギュッと握り込みます。本機を停止させるには、ハンドルを離します。

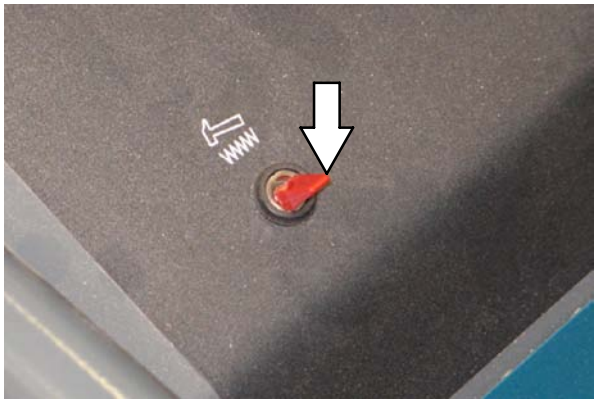


フィルターシェーカー制御スイッチ

フィルターシェーカー制御スイッチは、自動フィルターシェーカーをオンにします。スイッチが”オン”の位置にある場合は、本機が稼動を停止するとフィルターシェーカーがフィルターからゴミを 20 秒間振るい落します。通常の作業では、スイッチを”オン”の位置にしてください。



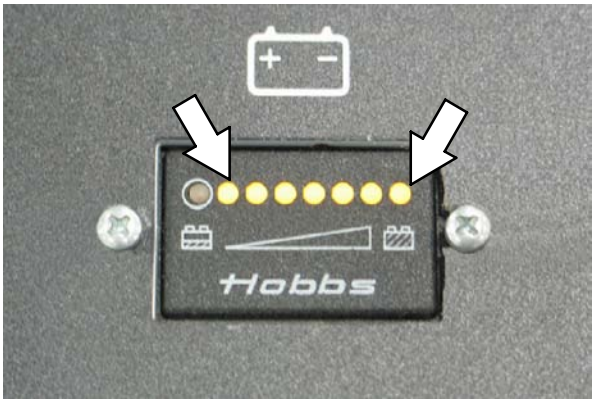
スイッチが”オフ”の位置になっている場合は、本機が稼動を停止してもフィルターシェーカーモーターは作動しません。本機を点検整備するときは、スイッチを“オフ”の位置にしてください。



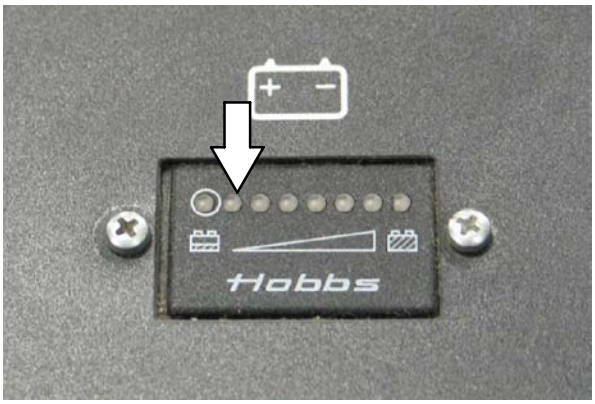
バッテリー充電インジケーター

バッテリー充電インジケーターは、バッテリーの充電レベルを表示します。

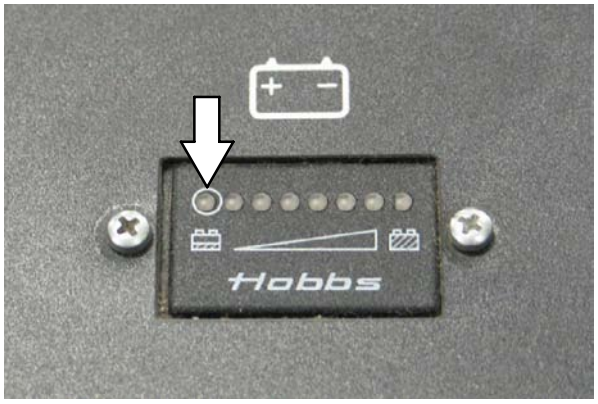
バッテリーが一杯に充電されている場合は、7 個のライトがすべて点灯します。



バッテリーが消費されるにつれて、ライトが次々と消えて、最後に一番左のライトが点滅します。それでも清掃機能は続行します。一番左のライトが点滅している場合にのみ、バッテリーを充電してください。



赤のライトが点灯すると、本機は完全にシャットダウンします。

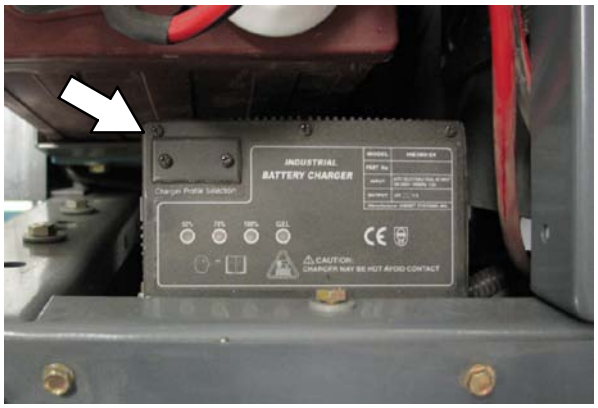


注記 ： 必要以上にバッテリーを充電しないでください。過剰な充電は、バッテリーの寿命を短縮します。一番左のライトが点滅してバッテリーの充電が必要なことを表示した時に、充電するのが最善の方法です。「メンテナンス」章の「バッテリー」セクションを参照してください。

注記 ： バッテリーが完全に充電されるまで、点滅する左の充電警告ライトはリセットされません。

バッテリーチャージャーパネル

バッテリーチャージャーパネルは、チャージャーが壁の電源ソケットに差し込まれた後、充電の進行状況を表示します。



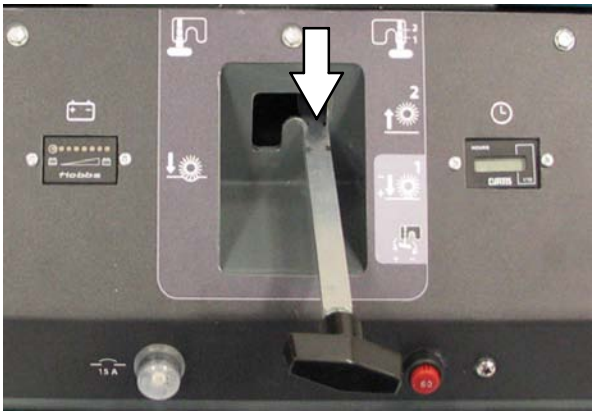
アワーメーター

アワーメーターは、本機が稼動した時間を記録します。本機の定期点検整備にこの情報を活用してください。

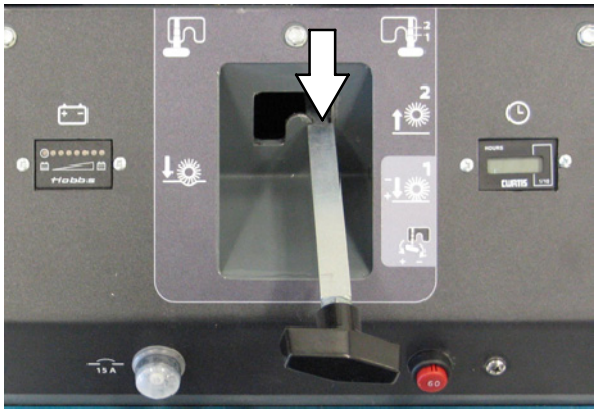
メインブラシレバー

メインブラシレバーは、メインブラシの位置を制御します。

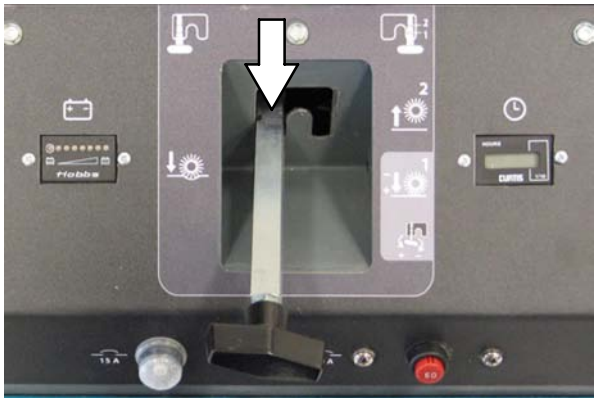
メインブラシアップレバーを上に引いて、レバーの根元のノッチをメインブラシアップの位置にロックします。



メインブラシダウン（滑らかで平坦な床）レバーを前に押してから後ろに引き、レバーの先端のノッチをメインブラシダウンの位置にロックします。



メインブラシ上下フロート（でこぼこの床）レバーを前に押してから左に引き、メインブラシ上下フロートの位置にロックを解除します。



本機を駐車する場合は、必ずブラシを上げた位置にしてブラシの刷毛に癖がつかないようにしてください。

サイドブラシアーム

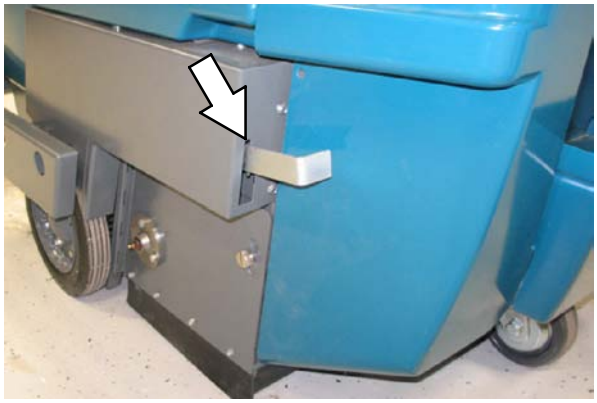
サイドブラシアームは、サイドブラシの位置を制御します。

サイドブラシを上げるには、アームを引き上げてから後ろに押してブラシアップの位置にします。サイドブラシを下ろすには、アームを前に引いてから離してブラシダウンの位置にします。

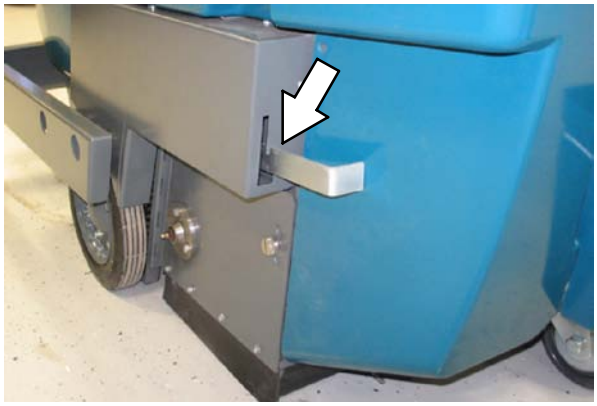
本機を駐車する場合は、必ずブラシを上げた位置にしてブラシの刷毛に癖がつかないようにしてください。

パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキを掛けるには、レバーを踏んで左側の長いノッチの方に離します。

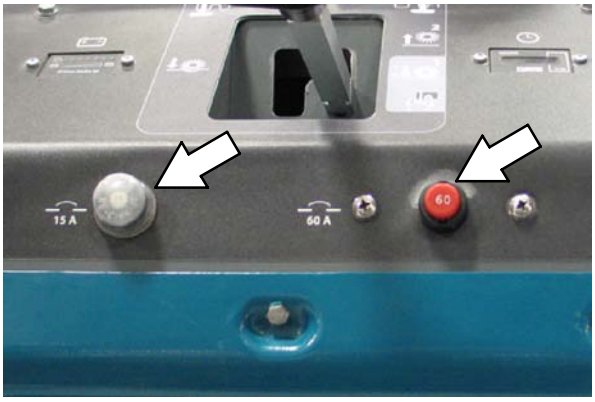


パーキングブレーキを外すには、レバーを踏んで右側の短いノッチの方に離します。



サーキットブレーカーとヒューズ

サーキットブレーカーは、リセット式電気回路保護装置で、回路に過重負荷が掛かった場合に電流を停止します。サーキットブレーカーがトリップした場合は、ブレーカーが冷却した後、リセットボタンを押して手動でブレーカーをリセットします。



ヒューズは使い捨て式保護装置で、電気回路に過剰負荷が掛かった場合に電流を停止します。15 アンペアのヒューズは、メインフレームの上のホッパーの後ろにあります。このヒューズは走行回路を保護しています。

注記 ： ヒューズは、必ず同じタイプで同じアンペア容量のヒューズと交換してください。

下の表は、サーキットブレーカーとヒューズが保護している電気回路を一覧します。

保護デバイス	定格	保護されている回路
CB-1	15 A	シェーカーモーター
CB-2	60 A	メイン駆動（走行）モーター
FU-1	15 A	コントロールパワー

ブラシ情報

最高の洗浄/清掃結果を得るために、お客様の洗浄/清掃用途にあったタイプのブラシやパッドをご使用ください。ブラシと各ブラシが最適なアプリケーションは下記の通りです。

NOTE:汚れの量とタイプにより、使用するブラシのタイプを選択します。選択の際には、テナントカンパニーの担当員にお問い合わせください。

ナイロン 6 二重列メインブラシ –
一般清掃用で、ホッパーへの回収効率が良好なブラシです。ナイロンは寿命が一番長い刷毛です。このブラシは粗い表面やでこぼこの多い表面の清掃にお使いください。

ポリプロプレン 6 二重列メインブラシ –
砂や砂利、散らばった紙などの回収に威力を発揮します。ポリプロプレンは濡れても硬度を維持するので、屋内または屋外で使用しても同じ性能を発揮します。高温の埃には使わないでください。

ファイバーとワイヤー 6列メインブラシ –
凝縮した大きなゴミの清掃と回収に最適です。
このブラシは、表面が少し固まっているゴミに適しています。大きな塊や硬くなってしまったゴミには不適切です。

天然ファイバー 18-列メインブラシ –
絨毯についている細かいゴミや、硬い表面上の大きな埃と細かい粒子の清掃に適しています。

本機の操作

操作前の点検事項

- ❑ バッテリーの充電レベルを点検します。
- ❑ ホッパーリップスカートに破損や磨耗がないか点検します。
- ❑ ホッパーシールに磨耗や破損がないか点検します。
- ❑ ダストフィルターに破損がないか点検します。
- ❑ メインブラシの状態を点検します。ブラシの周りに絡み付いている糸、バンド、プラスティックラップなどの破片を除去します。
- ❑ メインブラシとリアブラシのスカートに破損や磨耗がないか、またクリアランスに問題がないか点検します。
- ❑ サイドブラシ オプション：サイドブラシの状態を点検します。ブラシの周りに絡み付いている糸、バンド、プラスティックラップなどの破片を除去します。
- ❑ サービス記録から、点検整備の必要がないか調べます。

清掃作業

事前に清掃計画を考えてください。停止-開始の回数が最低になるように、できるだけ長い走行ルートを編成してください。ブラシの清掃通路を少し重ねてください。出来るだけ真直ぐに清掃してください。柱に衝突したり、本機の横でこすったりしないでください。非常に狭い廊下から前もって埃を大きな廊下の方に掃き出してください。床または場所全体を一度に清掃してください。

清掃前に、大きな破片を回収してください。ブラシやブラシのプラグに絡みつく恐れのある電線、糸、ひもなども回収してください。

1. スイッチのキーをオンの位置に廻します。

2. 装備している場合、本機のパーキングブレーキを解除します。
3. メインブラシレバーを「ブラシダウン」または「ブラシ上下フロート」の位置にします。
4. サイドブラシアームをブラシダウンの位置にします。
5. 必要に応じて清掃します。
6. メインブラシとサイドブラシを上げます。

7. オン-オフスイッチのキーを左に廻します。オン-オフスイッチからキーを抜き取ります。

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

ホッパーを空にする

1. メインブラシレバーを「ブラシアップ」の位置に引きます。

2. サイドブラシアームをブラシアップの位置に引きます。

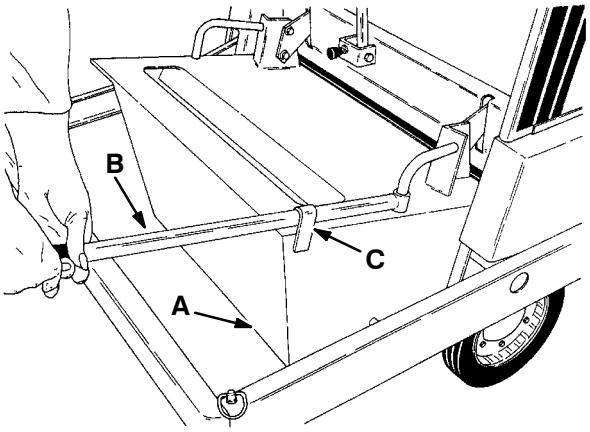
3. ゆっくりと本機をゴミの廃棄場所まで走行します。本機を停止します。シェーカーは、約 20秒稼動します。

*注記 ：*本機が停止したとき自動的にゴミフィルターを振るい落すためには、フィルターシェーカー制御スイッチが“オン”の位置になっていなければなりません。

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

4. フィルターカバーを持ち上げます。

5. ダンプレバー（B）をフック（C）の下に振ります。ホッパー（A）からゴミを投棄するため、ダンプレバーを持ち上げます。



03142

A. ホッパー
B. ダンプレバー
C. レバーフック

6. レバーフックを引っ掛けて（図示されない）、ホッパーを“投棄”位置に固定します。

7. 本機をバックしてゴミの投棄場所からゆっくりと離すか、本機からホッパーを取り外してホッパーのゴミを空にします。

注記 ： ホッパーを空にするためホッパーを取り外す必要がある場合は、次の”ホッパーを取り外す”セクションを参照してください。

8. レバーフックを解除し（図示されない）、ホッパーを下ろして、ダンプレバーを保管の位置に戻します。

9. フィルターカバーを下ろします。

ホッパーを取り外す

1. メインブラシレバーを「ブラシアップ」の位置に引きます。

2. サイドブラシアームをブラシアップの位置に引きます。

3. 本機を停止します。シェーカーは、約 20秒稼動します。

注記 ： 本機が停止したとき自動的にゴミフィルターを振るい落すためには、フィルターシェーカー制御スイッチが“オン”の位置になっていなければなりません。

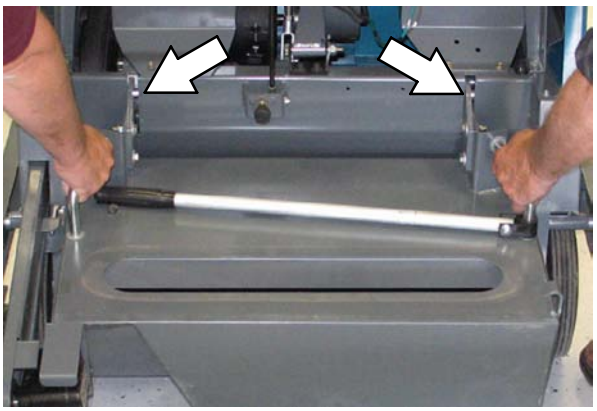
安全のために：本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

4. フィルターカバーを持ち上げます。

5. 本機からホッパーを取り外すには、もう一人必要です。本機からホッパーを持ち上げます。

警告：ゴミの詰まったホッパー：一人で取り外さないでください。腰を痛めるおそれがあります。

6. 本機にホッパーを再装着します。ホッパーの上のフックが本機にしっかりと装着されているのを確認してください。

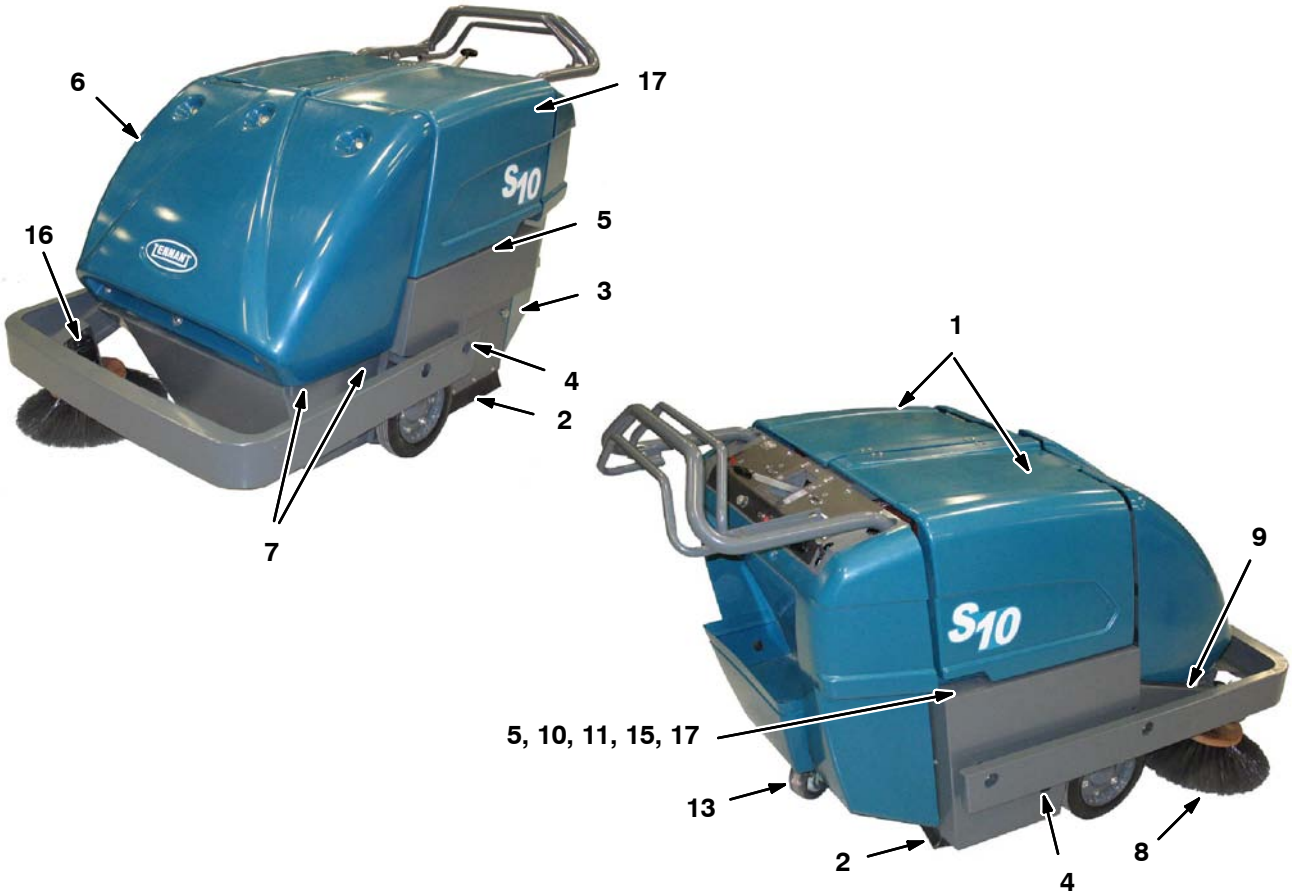


7. フィルターカバーを閉じます。

本機のトラブルシューティング、

問題	原因	対策
埃が過剰	ゴミスカートとシールが磨耗、破損、または調整不良	スカートまたはシールを取替または調整
	ダストフィルター詰り	フィルターを振るい落すか清掃（あるいはその両方）、または取替
	バキュームホースが破損	バキュームホースを取替
	バキュームファンベルトがスリップしているか破損	ベルトを調整または取替
清掃効率が悪い	ブラシの刷毛が磨耗	ブラシを交換
	ブラシの調整不良	ブラシを調整
	ブラシの取付不良	ブラシを再装着
	ブラシドライブ機構にゴミが絡み付いている	絡み付いたコミを除去
	ホッパーの調整不良	ホッパーの床からのクリアランスを調整
	ホッパーが一杯	ホッパーを空にする
	ホッパーの床スカートが磨耗か破損	スカートを交換
	ブラシベルトがスリップまたは破損	ベルトを交換
バッテリーチャージャーが稼動しない	チャージャーが電源ソケットに差し込まれていない	電源ソケットにチャージャーを差込み
	チャージャーコードが、チャージャーの底に完全に差し込まれていない	チャージャーにチャージャーコードを再挿入
	チャージャーコードが破損	チャージャーコードを交換

メンテナンス



点検整備表

周期	参照番号	説明	点検内容	潤滑油/液体	サービスポイント数
毎日	2	ブラシスカート	磨耗、破損、床からのクリアランスを点検	-	5
	3	メインブラシ	破損、磨耗、ゴミの付着を点検	-	1
	8	サイドブラシ	破損、磨耗、ゴミの付着を点検	-	1
	7	ホッパー	シールの破損または磨耗を点検	-	3
25 時間	1	バッテリーセル	電解液レベルを点検	DW	2
	3	メインブラシ	ブラシパターンを点検（最初の 25 時間のみ）	-	1
	5	駆動チェーン	テンションを点検、調整（最初の 25 時間のみ）	-	2

周期	参照番号	説明	点検内容	潤滑油/液体	サービスポイント数
50 時間	14	バキュームファンベルト	テンションと磨耗を点検	-	1
	10	駆動ベルト	テンションと磨耗を点検	-	2
	10	メインブラシベルト	テンションと磨耗を点検	-	2
	9	サイドブラシベルト	テンションと磨耗を点検	-	2
	8	サイドブラシ	接地圧力を点検	-	1
	3	メインブラシ	ブラシパターンを点検端と端を入れ替え	-	1
	4	ブラシアームピボット	注油	SPL	2
	13	リアキャスター	注油	SPL	1
	7	ホッパー	床からのクリアランスを点検	-	1
	17	バッテリーチャージャーケーブル	磨耗または破損を点検	-	1
100 時間	5	駆動チェーン	テンションを点検、調整	-	2
			注油	SO	2
	6	ダストフィルター	清掃するか交換	-	1
	11	自動調整式シーブ	注油	SPL	1
	1	バッテリー	上面と電極を清掃	-	2
	17	デファレンシャル	注油	SPL	1
400 時間	15	走行モーター	埃を吹き飛ばして検査	-	1
	16	サイドブラシギアボックス	潤滑油レベルを点検	GL	1

潤滑油/液体

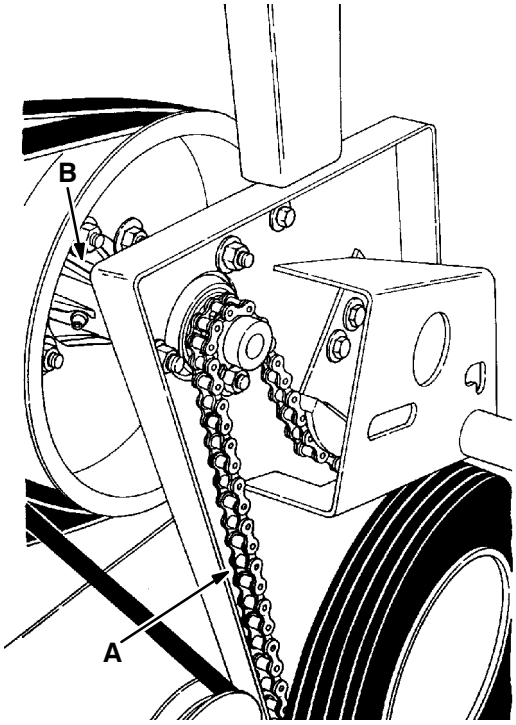
DW - 蒸留水
SPL - 特殊潤滑油、Lubriplate EMB グリース（テナントカンパニー部品番号 01433-1）
SO - スプレー式潤滑油
GL - SAE 90 ウェイトギア潤滑油

注記 ： ゴミが極端に多いところでは、点検整備の頻度が多くなる可能性があります。

注油

駆動チェーン

100 稼働時間ごとに駆動チェーン（A）のテンションを点検し、浸透タイプの噴霧式潤滑油で注油します。



03139

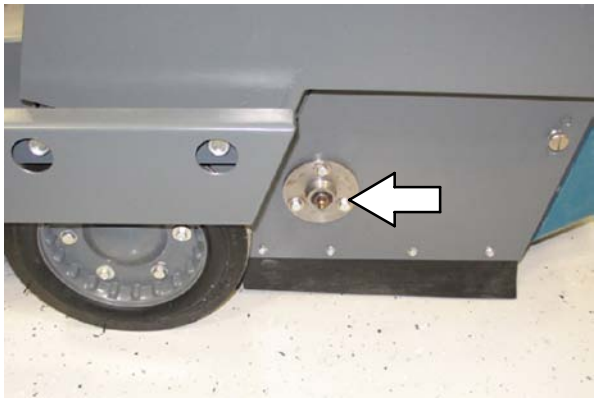
A. 駆動チェーン
B. デファレンシャル

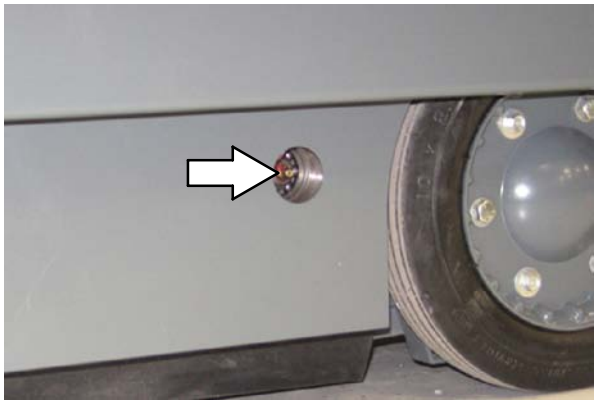
デファレンシャル

100 稼動時間ごとに、ディフレンシャル（B）に注油します。ディフレンシャルのグリース注入孔は、駆動シーブ内側の駆動シャフトにあります。

ブラシアームピボット

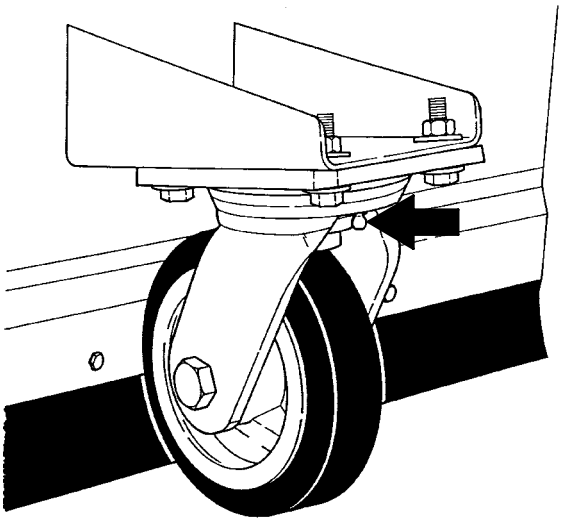
50 稼動時間ごとに、ブラシアームピボットに注油します。





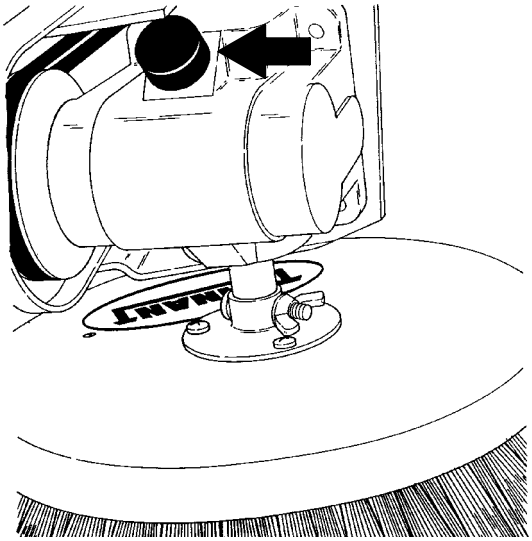
リアキャスター

50 稼動時間ごとに、リアキャスターに注油します。



サイドブラシギアボックス

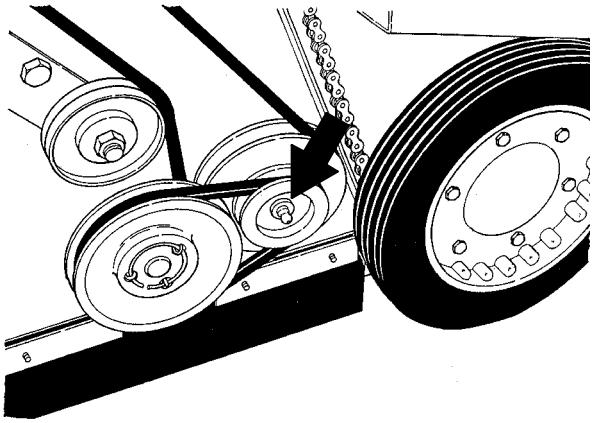
400 稼働時間ごとに、
サイドブラシギアーボックスの液体レベルを点検します。スパナでねじを緩めブレーザーを外してください。プラスティックの通気カバーは外さないでください。上から 0.25 in (6 mm) 以内に液体を充填してください。



03144

自動調整式シーブ

100 稼動時間ごとに、シーブのシャフトに注油します。 ベルトやシーブベルトの表面に油が付着しないようにしてください。



03141

バッテリー

バッテリーは長い期間にわたりその機能を維持することができます。バッテリーの寿命は、バッテリーに充電する回数によって決まります。バッテリーの寿命を最大限にするためには、バッテリー充電レベルインジケーターが点滅を開始したら直ちに充電してください。

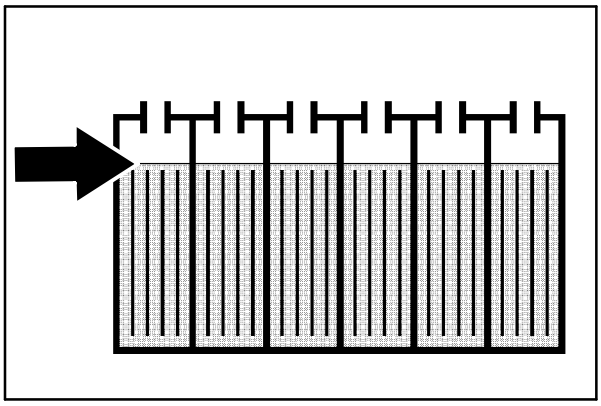
安全のために： 本機の点検整備でバッテリーやバッテリーケーブルを処理するときは、保護用の手袋を着用してください。バッテリー液には触れないでください。

100 稼動時間ごとに、バッテリーの接続が緩んでいないか点検し、ベーキングソーダと水の濃い溶液でバッテリーの表面ならびに電極とケーブルクランプを清掃してください。溶液を少量浸したブラシで、バッテリーの上を掃きます。ベーキングソーダ溶液がバッテリーに入らないようにしてください。
ワイヤーブラシを使って、電極とケーブルコネクターを清掃します。洗浄液の残留をすべて拭き取ってください。
清掃後、電極とケーブルコネクターに透明なバッテリー電極保護剤をコーティングしてください。常に、バッテリーの表面を清潔で乾燥した状態に保ってください。

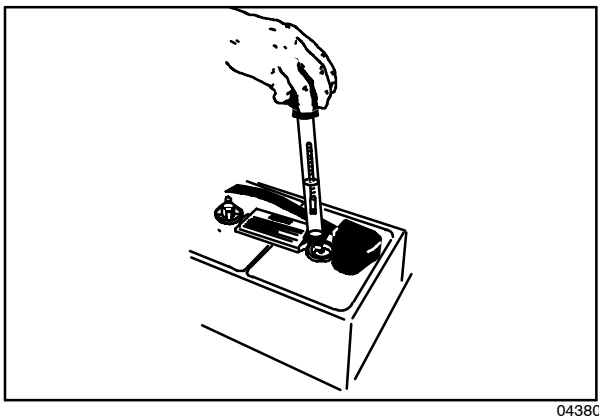
金属製の物品は、バッテリーのショートを引き起こす危険があります。
バッテリーには、金属物を近づけないでください。磨耗または破損したワイヤーは交換してください。不良バッテリーは交換してください。バッテリーの処分には、バッテリー販売店またはテナントサービス係員にご連絡ください。

液入りバッテリー

充電の前後、および 25 稼動時間ごとに各バッテリーの電解液レベルを点検してください。バッテリーには、絶対に酸を加えないでください。蒸留水のみを加えてください。水を追加するか比重を読むとき以外は、常にバッテリーにキャップを被せていてください。



比重計を使い、比重を測定してバッテリーの充電レベルと状態を判定してください。1 つ以上のバッテリーセルの計測値が他のバッテリーセルよりも低い場合は（0.050 以上）、セルが破損、ショート、または故障寸前の状態になっています。バッテリーを完全に再充電してから、再テストしてください。



04380

注記 ：蒸留水を加えた直後に測定しないでください。水と酸が完全に混合していない場合は、測定値が不正確になります。比重測定値を次のチャートと比較して、バッテリーの残留充電量を判定してください。

比重温度 27° C (80°F) の時	バッテリーチャージ
1.265	100% 充電
1.225	75% 充電
1.190	50% 充電
1.155	25% 充電
1.120	空

注記 ：バッテリー電解液の温度が 27° C (80° F) 以外の場合に測定したときは、温度補正をする必要があります。27° C (80° F) から 6° C (10° F) の変動 に対して、温度が高い場合は比重測定値に0.004 (4 ポイント) プラス、低い場合は比重測定値から0.004 (4 ポイント) マイナスしてください。

バッテリー充電

次の充電説明は、本機に同梱されているバッテリーチャージャー用のものです。

50 稼働時間ごとに、バッテリーチャージャーコードに破損がないか点検してください。

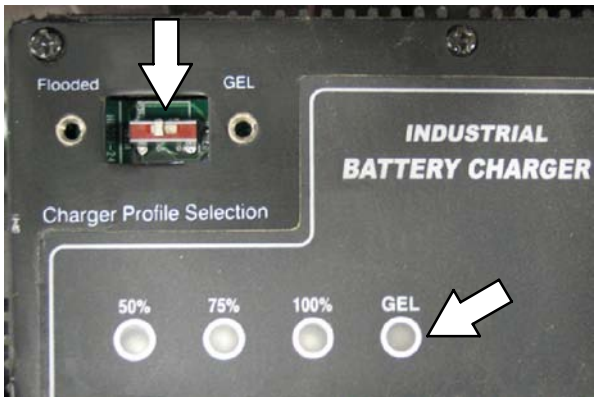
バッテリーの寿命を延ばすため、合計 30 分以上本機を使用した場合にのみバッテリーを再充電してください。また、長時間バッテリーを空のまま放置しないでください。

⚠ 警告： 火災または爆発の危険。バッテリーは水素ガスを放出します。火花や炎を絶対に近づけないでください。充電中は、バッテリー収納部のカバーを開けたままにしてください。

安全のために： バッテリーの点検整備でバッテリーやバッテリーケーブルを処理するときは、保護用の手袋と眼鏡を着用してください。バッテリー液には触れないでください。

設定を誤るとバッテリーが破損します。バッテリータイプの判定は、バッテリーラベルを調べてください。指定がない場合は、バッテリーのサプライヤーに連絡してください。

チャージャーの設定を確認するには、チャージャーコードを電源ソケットに差し込みます。LED が “GEL” を表示する場合は、チャージャーが Gel (密閉型) バッテリーに設定されています。LED がオフの場合は、チャージャーが Wet/鉛酸 (液体) バッテリーに設定されています。



チャージャーの設定を変更するには、チャージャーの電源を抜いてから ” Charger Profile Selection” (チャージャー設定選択) パネルを取り外し、“GEL” (密閉型) または “Flooded” (液体) のいずれか正しい設定にスイッチを切り替えます。

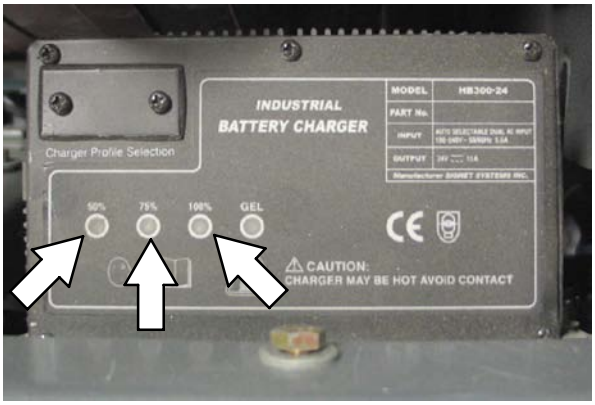
1. 充電には、本機を空気の流通が良い場所に移動します。

安全のために：本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

2. 液体（鉛酸）バッテリーを充電する場合は、充電前に液体のレベルを点検してください（バッテリーメンテナンスを参照）。

3. 充電中は、バッテリー格納部のカバーを取り外して通風を良くします。

4. チャージャーコードを正しく接地されている電源コンセントに差し込みます。数秒後にチャージャーがスタートします。LED が、次のテーブルに従い充電状況を表示します。



充電状況 LED 表示			
充電状況	50% LED	75% LED	100% LED
0-50% 充電	点滅	オフ	オフ
50-75% 充電	オン	点滅	オフ
75-100% 充電	オン	オン	点滅
100% 充電	オン	オン	オン
異常サイクル**	オフ	オフ	点滅
故障検出*	点滅	点滅	点滅

* 搭載のバッテリーチャージャー故障コードテーブルを参照してください。
故障が発生すると、チャージャーは警告音を出します。

注記：バッテリーチャージャーが接続されると、本機は稼動しません。

5. バッテリーが完全に充電されると、チャージャーは電力の供給を停止します。ただし、バッテリー電圧のモニターを続行します。バッテリーが自己放電すると、チャージャーは再スタートします。

注記：チャージャーのコードを抜いた後、チャージャーが消えるまで最大 30 秒かかります。この間は、本機がパワーアップしません。また、チャージャーを再スタートする前に、チャージャーコードを 30 秒間抜いておく必要があります。

6. 電源ソケットからチャージャーコードを抜き、左側のバッテリーの下にコードを丁寧に格納してください。

注記：チャージャーコードが破損しないように、コードを引っ張って電源ソケットから抜かないでください。プラグを掴んで電源ソケットから抜いてください。

7. バッテリー格納部のカバーを再装着します。

LED 故障コード	故障	対策
3 LEDs が繰り返し一回点滅	チャージャーケーブルの接続が緩んでいる	チャージャーケーブルの接続を点検
	バッテリーケーブルが緩んでいるか破損している	バッテリーケーブルの接続を点検
	バッテリーが故障	バッテリーを交換
3 LEDs が繰り返し二回点滅	入力電圧が範囲外	別の電源ソケットを使う
3 LEDs が繰り返し三回点滅	安全サーモスタットが最大内部温度の超過を検出	バッテリー格納部を開いて空気の流通を良くするか、本機を涼しい場所に移動する
3 LEDs が繰り返し四回点滅	出力電流が限界値を超過	チャージャーコードを抜いて 30 秒待ち、またプラグを差し込む。故障が続く場合はチャージャーを交換するかテナントカンパニーのサービスに連絡
100% LED が点滅し、50% と75% LEDがオフ	異常サイクル安全タイマーが 18 時間の充電時間超過を検出	バッテリーの補修点検が必要かまたはバッテリーを交換

電気モーター

電気走行モーターは、点検整備が可能です。走行モーターは、バッテリー格納部の下にあります。

400 稼動時間ごとに、埃を吹き飛ばしてモーター内部にあるモーターブラシを点検してください。

ブラシが磨耗して長さが 10 mm (0.38 in) より短くなっている場合は、交換してください。

コミュテーターが磨耗または乱れていいる場合は、モーターのアーマチュアを取り外して整備するか交換する必要があります。

ベルトとチェーン

走行ベルト

50 稼動時間ごとに、走行ベルトの磨耗とテンションを点検してください。

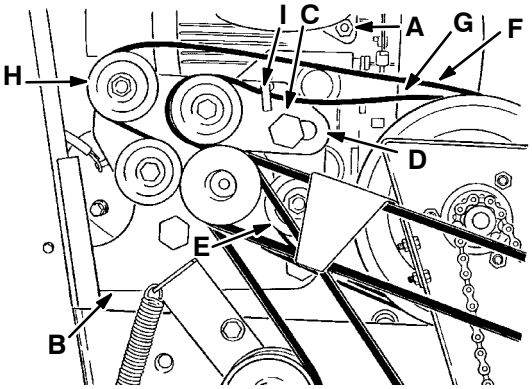
走行ベルトのテンションを点検して調整する

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. アクセスカバー、バンパー、カバーを取り外します。

2. クラッチハンドルに圧力をかけない状態で、クラッチプレートボルト (C) の位置を観測します。ボルトはスロット (D) のほぼ中央になければなりません。

3. クラッチハンドルを押して、前進走行駆動ベルト (G) を締めます。クラッチハンドルは、静止ハンドルから 7～13 mm (0.15～0.50 in) 離れていなければなりません。クラッチプレートボルト (C) の位置を観測します。ボルトが スロット (D) の端にきていてはいけません。ハンドルとボルトが正しい位置になっている場合は、ステップ 7 に進みます。正しくない場合は、ステップ 4 に進んでベルトのテンションを再調整します。



03151

A. モーター
B. クラッチプレート
C. クラッチプレートボルト
D. ボルトスロット
E. 前進ベルトアイドラーシーブ
F. 後進走行ベルト
G. 後進走行ベルト
H. 後進ベルトアイドラーシーブ
I. ベルトガイド

4. 前進アイドラーシーブボルト（E）を緩めて、アイドラーシーブを下に滑らしてベルト（G）を締めます。（これによりクラッチハンドルと静止ハンドルの間が広がります。）シーブを上に滑らしてベルトを緩めます。（これによりクラッチハンドルと静止ハンドルの間が狭くなります。）

5. アイドラーシーブボルトを締めます。

6. ハンドルのボルト位置を再点検します。必要に応じて、ベルトテンションの調整を繰り返します。

注記 ：前進ベルトの調整後、作動中にベルトガイドに接触してヒューという音が出る場合があります。この音を消すには、ベルトガイドを上に曲げてベルトに触れないようにしてください。

7. クラッチハンドルを押して、後進走行ベルトを締めます。クラッチプレートボルト（C）の位置を観測します。ボルトがスロット（D）の端にきていてはいけません。ハンドルとボルトが正しい位置になっている場合は、ステップ 11 に進みます。正しくない場合は、ステップ 8 に進んで後進ベルトのテンションを再調整します。

注記：クラッチハンドルを押して、後進走行ベルトを締めます。クラッチプレートボルト（C）の位置を観測 します。ボルトがスロット（D）の端にきていてはいけません。ハンドルとボルトが正しい位置になっている場合は、ステップ 11 に進みます。正しくな い場合は、ステップ 8 に進んで 後進ベルトのテンションを再調整します。

8. 後進アイドラーシーブボルト（H）を緩めて、アイドラーシーブを後ろに滑らしてベルト（F）を締めます。シーブを前に滑らしてベルトを緩めます。

9. 後進アイドラーシーブボルト（H）を締めます。

10. クラッチハンドルを引いて、クラッチプレートボルト（C）の位置を再点検します。必要に応じて、ベルトテンションの調整を繰り返します。

11. アクセスカバー、右のサイドカバー、バンパーを再装着します。

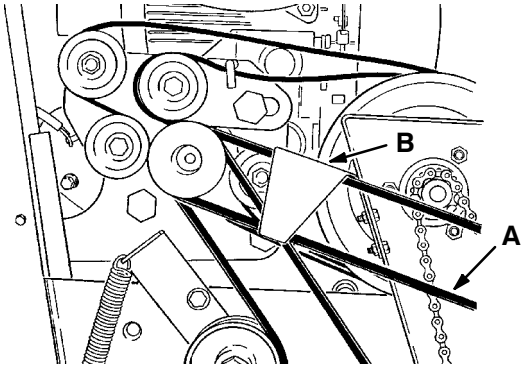
サイドブラシベルト

50 稼動時間ごとに、ベルトの磨耗とテンションを点検します。

サイドブラシベルトのテンションを点検して調整する

安全のために：本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

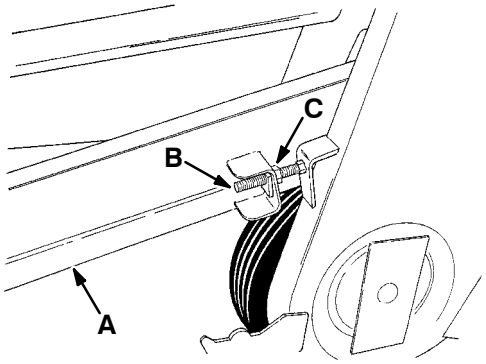
1. フィルターカバーを持ち上げます。
2. ゴミホッパーを取り外します。
3. アクセスカバー、右のサイドバンパーとカバーを取り外します。
4. サイドブラシアームをダウンの位置にします。
5. モーターシャフトから 230 mm（9 in）の点でベルト（A）のテンションを点検します。3 kg（6 lb）の力を加えたとき、ベルトが 20 mm（0.75 in）たわむと適切な テンションです。



03151

A. サイドブラシベルト
B. ベルトガイド

6. ベルトテンションを調整するには、サイドカバー側からボタンヘッドのねじ（図示されない）を緩めます。
7. サイドブラシアーム（A）を外側に引っ張ってベルトを締めます。



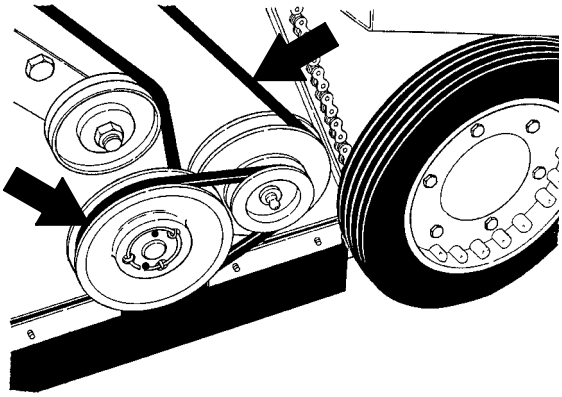
03153

A. サイドブラシアーム
B. ストップボルト
C. ロックナット

8. ベルトが正しいテンションになったら、ボタンヘッドのねじを締めます。
9. ストップボルト（B）を、停止面から 5 mm（0.06 in）の間隔に調整します。
10. ゴミホッパーを再装着します。
11. フィルターカバーを下ろします。

メインブラシベルト

50 稼動時間ごとに、メインブラシベルトに磨耗がないか点検します。



03141

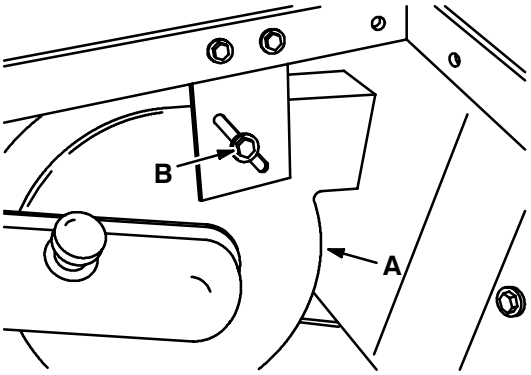
バキュームファンベルト

50 稼動時間ごとに、バキュームファンベルトの磨耗とテンションを点検します。

バキュームファンベルトのテンションを点検して調整する

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングプレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. リアパネルを取り外します。
2. ベルトが張っている丁度真ん中の点に 3 kg (6 lb) の力をかけてベル トのたわみを点検します。ベルトが 5 mm (0.06 in) たわむと正しいテ ンションです。
3. ベルトのテンションを調整するには、ベルト調整スタッドナット (B) を緩めます。バキュームファンアッセンブリー (A) を上に引っ張ってベルトを締め、スタッドナットを締めます。



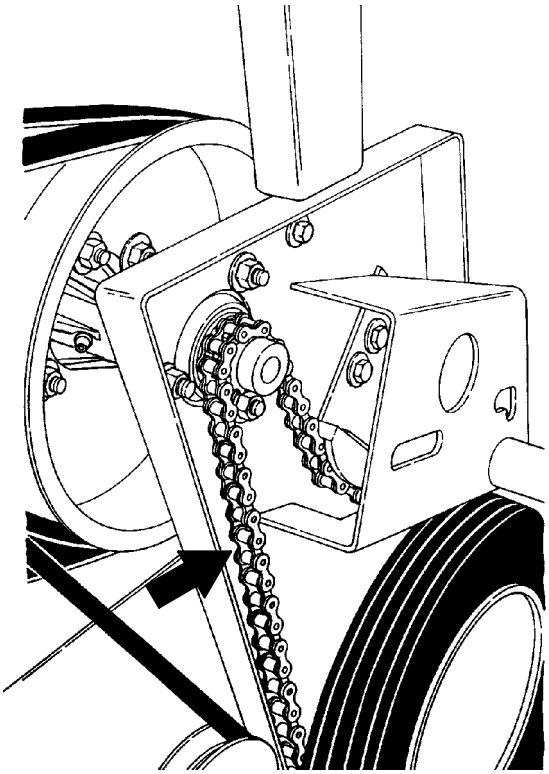
06320

A. バキュームファン
B. スタッドナット

4. すべてのナットを締めてから、ベルトのテンションを再点検します。
5. リアパネルを再装着します。

車輪駆動チェーン

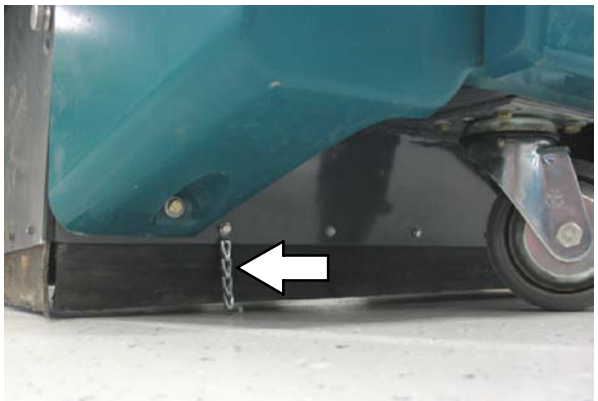
最初の 50 稼動時間後、 ならびに続く 100 稼働時間ごとに 駆動チェーンの磨耗や破損、ならびにテンションを点検します。車輪駆動チェーンは、両方のスプロケットの丁度真ん中の点で 10 mm (0.4 in) のたるみが 必要です。



03139

静電ドラッグチェーン

静電ドラッグチェーンは、マシンの静電気蓄積を防ぎます。チェーンに磨耗がないか定期的に点検してください。チェーンは、常時床に触れるようにしてく ださい。



ブラシ

メインブラシ

毎日、メインブラシに磨耗や破損がないか点検します。メインブラシ、メインブラシの駆動ハブやアイドラーハブから、絡みついた糸やワイヤーを取り除いてください。

50 稼動時間ごとに、ブラシの端と端を入れ替えてブラシの寿命を最長に保ちます。刷毛の長さが 15 mm (0.5 in) まで磨耗したときには、ブラシの交換が必要です。

50 稼働時間ごとに、メインブラシパターンを点検してください。メインブラシパターンの幅は、40 mm (1.5 in) でなければなりません。

メインブラシを取り外す

安全のために：本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングプレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜き

1. メインブラシレバーを上げて上下フロートの位置にします。
2. メインブラシアクセスドアー (D) を開きます。
3. ブラシをブラシ収納部から引き出します。

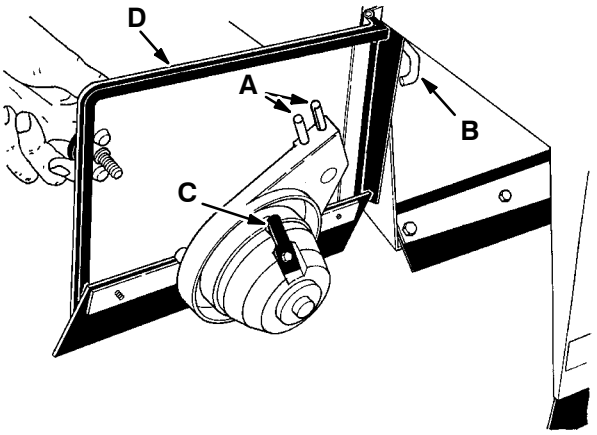
メインブラシを取り付ける

注記 ：ホッパーを取り外すと、メインブラシを取付けが容易になります。ホッパーを取り外す手順は、「オペレーション」の「ホッパーを取り外す」を参照してください。

1. ブラシ収納部にブラシを滑りこませます。
2. メインブラシ駆動ハブのキー（図示されない）がブラシの端にあるスロットにかみ合うまで、ブラシを回転します。

注記 ：メインブラシを駆動ハブに強く押し付けないでください。メインブラシのスロットが適切にドライブハブのキーにかみ合うと、メインブラシは簡単にドライブハブに装着します。

3. メインブラシアクセスドアー (D) を閉じます。リフトアーム (B) がアイドラーリフトアームピン (A) とかみ合っているのを確認してください。

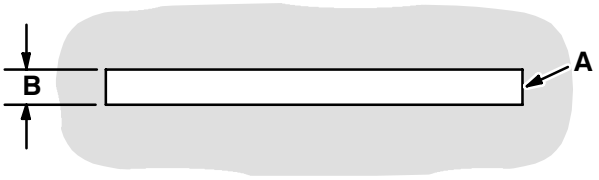


A. リフトアームピン
B. リフトアーム
C. アイドラーキー
D. アクセスドアー

4. 「メインブラシパターンを点検して調整する」にある説明に従って、メインブラシパターンを点検して調整してください。

メインブラシパターンを点検して調整する

1. 床の滑らかで平坦な箇所に、チョークまたは簡単に吹き飛ばされない代わりの物質をまきます。
2. 本機をスタートします。
3. サイドブラシとメインブラシを上げたまま、チョークをまいた箇所の上にメインブラシを移動します。
4. 本機を停止したまま、メインブラシレバーをブラシダウンの位置にします。ブラシを 15～20 秒床の上にそのままにしておきます。
5. メインブラシレバーを上げてブラシアップの位置にします。
6. 本機をメインブラシの磨きマークが付いた箇所から移動します。
7. 本機を停止します。
8. 磨きマークの幅を観察します。適正な磨き幅は、40 mm（15 in）です。

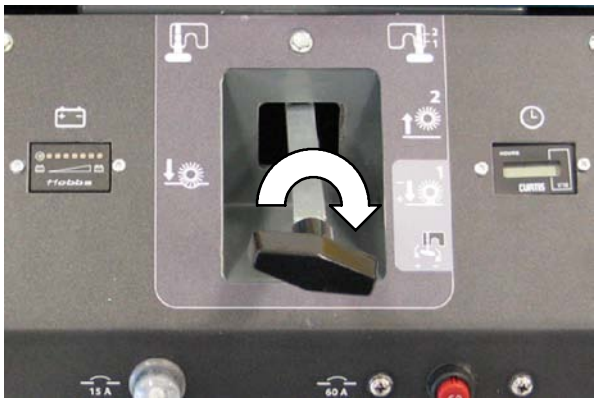


00582

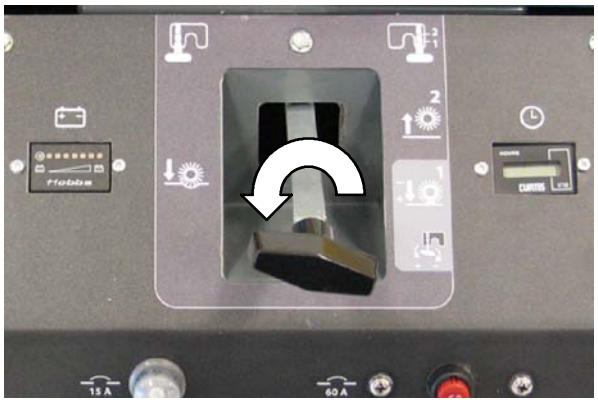
A. メインブラシパターン
B. 磨き幅

9. 必要に応じて、メインブラシの幅を調整します。

   磨き幅を少なくするには、メインブラシレバーを右に回転します。



   磨き幅を大きくするには、メインブラシレバーを左に回転します。



調整した場合は、本機を操作する前にメインブラシパターンを再点検してください。

サイドブラシ

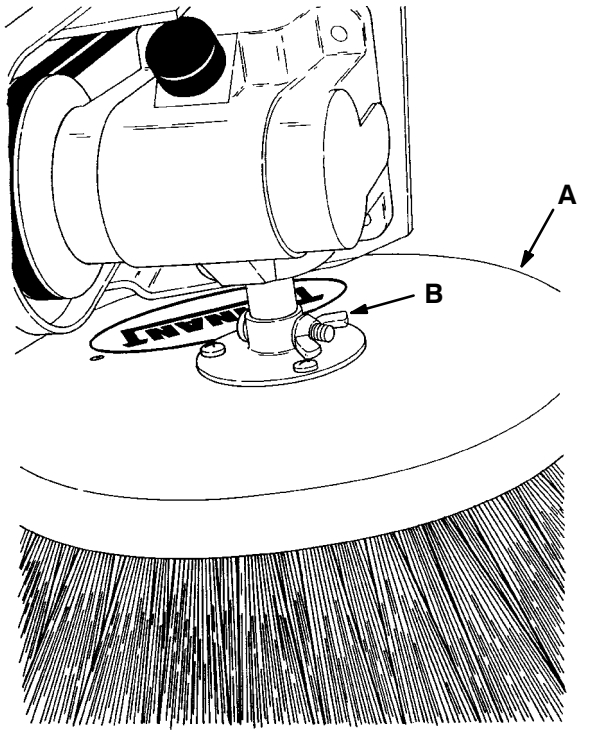
毎日、サイドブラシに磨耗や破損がないか点検します。サイドブラッシとサイドブラシ駆動ハブやシャフトから、絡みついた糸やワイヤーを取り除きます。
刷毛の長さが 25 mm（1 in）まで磨耗したときには、サイドブラシの交換が必要です。

50 稼働時間ごとに、サイドブラシを点検してください。サイドブラシアームがアップの位置にあるとき、床からサイドブラシの刷毛までの間隔が約 25 mm（1 in）である場合は、サイドブラシが適切に調整されています。

サイドブラシを取り外す

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. サイドブラシアームをブラシアップの位置に引きます。
2. サイドブラシ取付ハードウェア（B）を取り外します。



A. サイドブラシ
B. 取付ハードウェア

3. サイドブラシ（A）を駆動シャフトから滑り落とします。

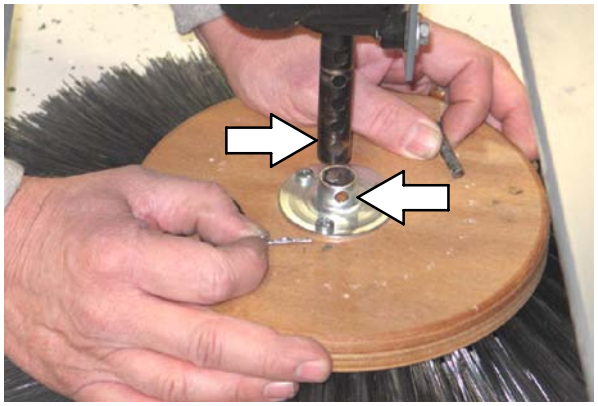
サイドブラシを取り付ける

1. サイドブラシ（A）を駆動シャフトに滑り込ませます。
2. サイドブラシを取付ピン（B）で固定します。
3. 「サイドブラシを調整する」にある説明に従い、サイドブラシの調整状態を点検してください。

サイドブラシを調整する

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. サイドブラシアームをブラシアップの位置に引きます。
2. サイドブラシ取付ピン（B）を取り外します。
3. 床からブラシの刷毛までの間隔が約 25 mm（1 in）になるまで、シャフト上でサイドブラシを移動します。



4. サイドブラシを駆動シャフトの穴に揃えます。
5. 取付ピンでサイドブラシを駆動シャフトに固定します。

注記：イドブラシの高さを調整した後、サイドブラシの駆動ベルトテンションの再調整が必要になる場合があります。

ゴミホッパーとダストフィルター

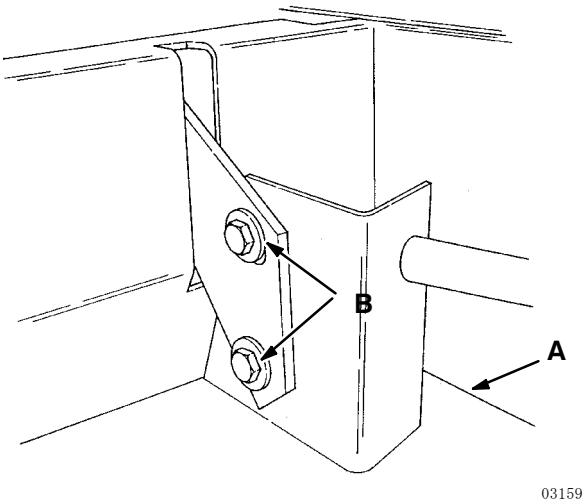
ゴミホッパー

ゴミホッパーは、清掃作業の終了後、またはホッパーが一杯になったときに空にする必要があります。50 稼動時間ごとに、ゴミホッパーから床までの間隔を点検してください。また、ダストフィルターの振動でゴミを振るい落すた めには、ダストフィルターとホッパーシールの間隔の調整が必要です。

ホッパーと床のクリアランスを点検して調整する

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. ゴミホッパーを空にして本機に再装着します。
2. ホッパーの背面底部の金属エッジから床までのすき間が 15 mm (0.5 in) でなければなりません。また、ホッパーの横が水平になっているのを確認してください。
3. ホッパー (A) を調整するには、ハンガーブラケットボルト (B) を緩めて、ハンガーブラケットの位置を再調整してから、ハンガーブラケットボルトを再び締めます。ホッパーブラケットが、ホッパーが浮き上がるのを防止しているピボットピンをこすらないように注意してください。

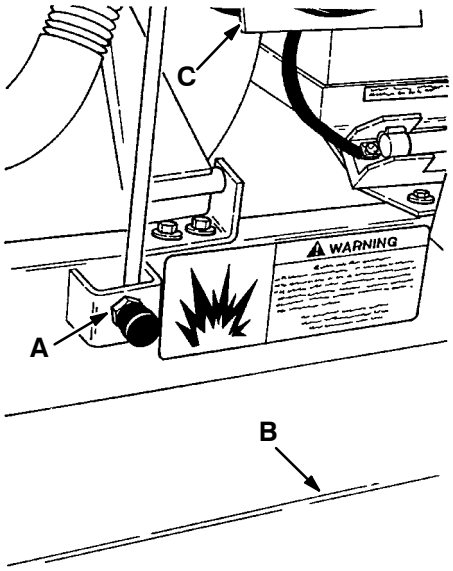


A. ホッパー
B. ハンガーブラケットボルト

ダストフィルターとホッパーシールの位置を調整する

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. フィルターアッセンブリーを持ち上げます。
2. ストップボルト (A) がフィルターアッセンブリーに触れているのを確認します。触れている場合は、ステップ 3 に進みます。触れていない場合は、ボルトを緩め、背後の丸いバキュームファンシールブラケット (C) の位置を調整してフィルターアッセンブリーがストップボルトに触れるようにします。バキュームファンシールブラケットを固定します。



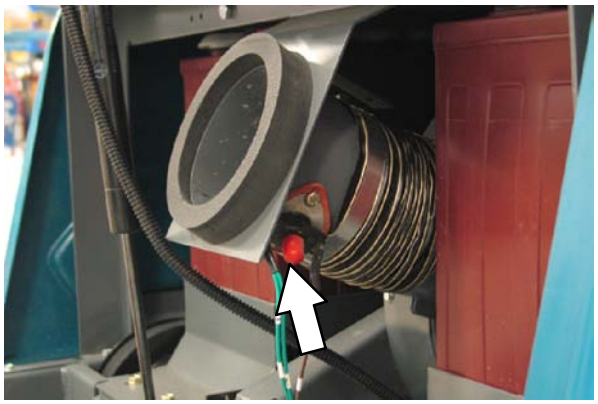
A. ストップボルト
B. ホッパー
C. バキュームファンシールブラケット

3. フィルターストップボルト（A）を時計の進行方向に半回転します。

4. フィルターアッセンブリーを閉じて、フィルターカバー、ホッパー、バキュームファンシールの間のクリアランスを点検します。紙を細長く切ってフィルターカバーとホッパーの間に置いてください。適切に調整されている場合は、紙を引き抜くのが困難になります。シールの圧力でホッパーは浮いていなければなりません。ホッパーを下に押して点検してください。ホッパーは下がったあと、また元の位置に戻らなければなりません。

サーモセントリー

サーモセントリーは、ホッパーの内側に置かれていて、ホッパーから吸引される空気の温度を検知します。ホッパー内で火災が発生すると、サーモセントリーはバキュームファンを停止させ、空気の流れを遮断します。ボタンを押してサーモセントリーをリセットします。



ダストフィルター

ダストフィルターは、ダストフィルター格納部の内側に置かれています。フィルターシェーカーは、本機が稼動停止したとき 20 秒フィルターを振動させます。100 稼動時間ごとに、ダストフィルターを点検して清掃または交換します。

注記: 本機が稼動停止したとき自動的にゴミフィルターを振るい落すためには、フィルターシェーカー制御スイッチが“オン”の位置になっていなければなりません。殆どの操作で、フィルターシェーカー制御スイッチは”オン”の位置になければなりません。

次に述べる方法のいずれかで、ダストフィルターを清掃します。

- タッピング – フィルターの埃側を下にして平たい表面を軽くたたきます。フィルターのエッジが破損しないように注意してください。破損すると、フィルターをフィルターフレームに正しくシールできません。

- エアーブロー – 最大 240 kPa (35 psi) の圧縮空気を、フィルターの横にある矢印と反対方向にダストフィルターに吹きつけます。本機の中にダストフィルターを置いたままで清掃可能です。圧縮空気を使う場合は、常に保護眼鏡を着用してください。

安全のために： 圧縮空気や高圧水を使う場合は、安全メガネと耳のプロテクターを着用してください。

- 水洗 – ダストフィルターを水と弱い洗剤溶液に浸します。きれいになるまで、ダストフィルターを水洗します。最大の許容水圧は 275 kPa (40 psi) です。湿ったダストフィルターを空気中で乾かしてください。圧縮空気は使わないでください。

注記 ：必ずダストフィルターが乾いてから本機に装着してください。

ダストダストフィルターを取り外す

安全のために：本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングブレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

1. 6 本のフロントフィルターカバーねじを緩めて、フロントフィルターカバーを取り外します。

2. フィルター取付けプレートを外します。ダストフィルターを取り外します。

3. ダストフィルターを点検して、清掃するか交換します。

ダストダストフィルターを取り付ける

1. フィルターの横にある矢印を本機の外側に向けて、ダストフィルターをフィルターフレームに置きます。

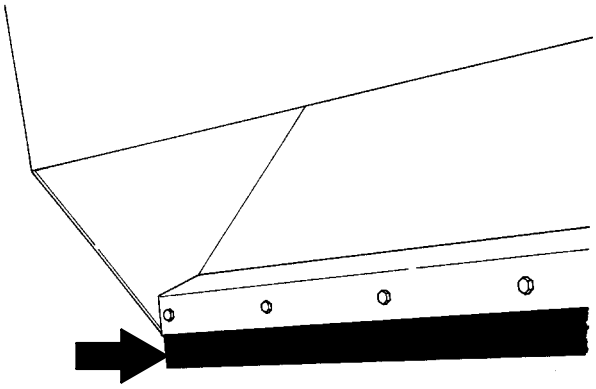
2. フィルターの上にフィルター取付けプレートを置きます。

3. 6 本のフロントフィルターカバーねじで、フロントフィルターカバーをフィルターフレームの上に固定します。

スカートとシール

ホッパーリップスカート

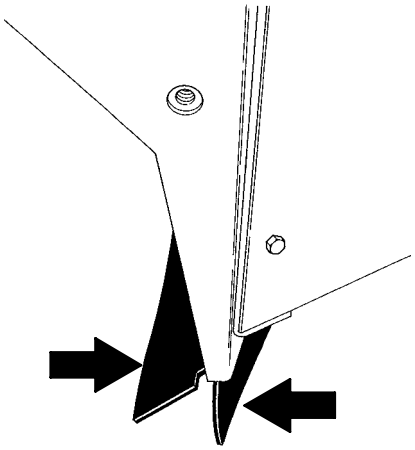
ホッパーリップスカートは、ホッパーの後部下側にあります。毎日、ホッパーリップスカートに磨耗や破損がないか点検してください。



02348

リアブラシスカート

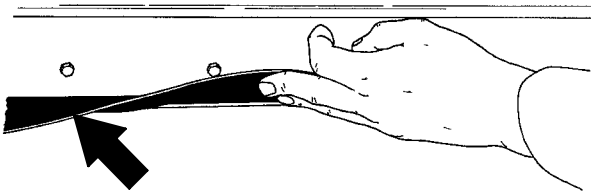
リアブラシスカートは、ブラシ収納部の後部底にあります。リアブラシスカートは、床から 2 mm (0.06 in) のクリアラン スがなければなりません。毎日、スカートの磨耗や破損、ならびに床からのクリアランスを点検してください。



03157

ホッパートップシール

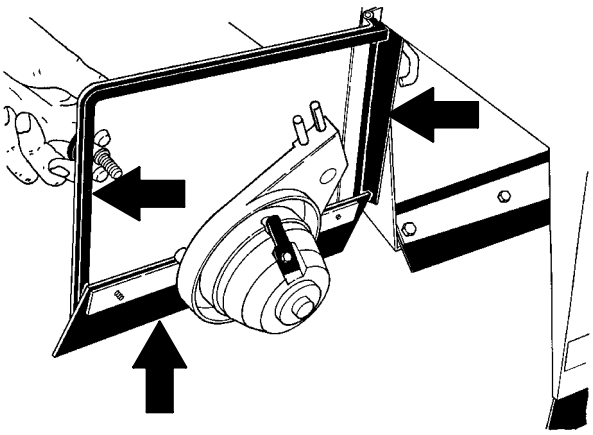
ホッパートップシールは、マシンフレームのフロントエッジにあります。毎日シールに磨耗や破損がないか点検してください。



02349

メインブラシスカートとシール

右側のシール（図示されない）は、マシンフレームに取り付けられています。左側のシールは、メインブラシアクセスドアーに取り付けられています。メインブラシドアーシールはドアーに取り付けられています。毎日、これらのシールに磨耗や破損がないか点検してください。メインブラシスカートは、床から 2 mm (0.06 in) のクリアランスがなければなりません。毎日、スカートの磨耗や破損、ならびに床からのクリアランスを点検してください。



02347

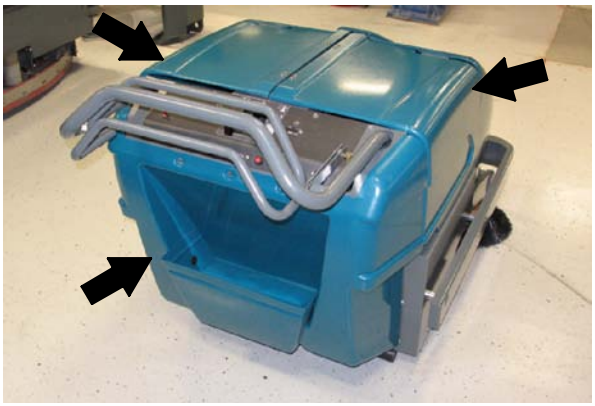
走行ハンドルアッセンブリー

走行ハンドルアッセンブリーの高さ調節

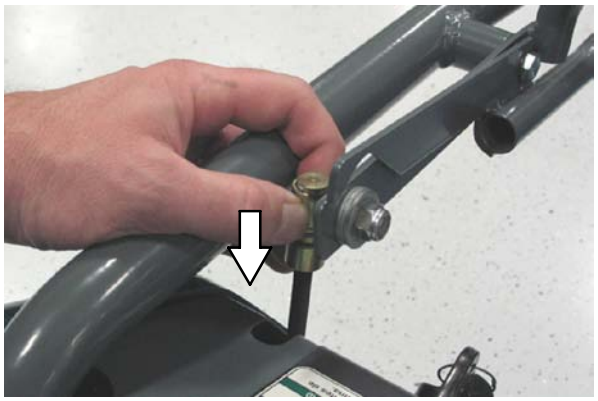
走行ハンドルアッセンブリーの高さは調節可 能です。

安全のために： 本機から離れるか点検整備する前に、水平な床に停め、パーキングプレーキを掛け、マシンをオフにしてキーを抜きます。

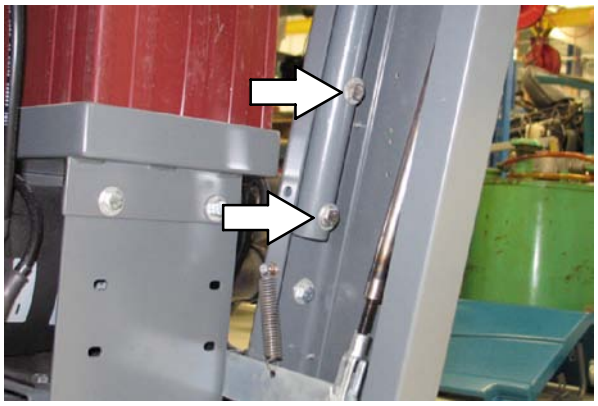
1. バッテリー格納部カバーとリアカバーを取り外します。カバーと取付ピンを邪魔にならないところに置きます。



2. ボールジョイントのスリーブを下に滑らして、走行ハンドルアッセンブリーからボールジョイントを切り離します。

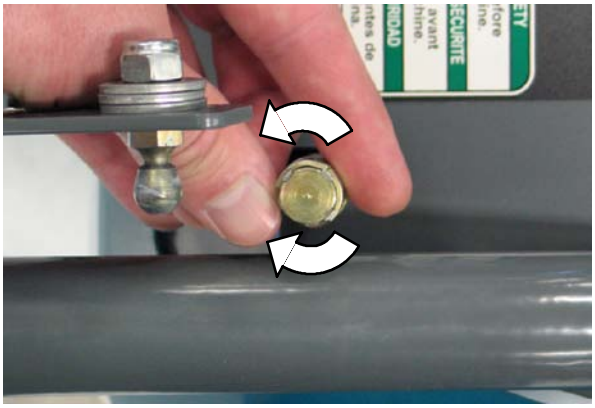


3. 走行ハンドルアッセンブリーをマシンフレームに固定している取付ピンを取り外します。取付ピンを邪魔にならないところに置きます。



4. 走行ハンドルアッセンブリーを希望する高さに上下します。
5. 走行ハンドルアッセンブリーにある穴をマシンフレームにある穴に揃え、取付ピンを再装着して、ハンドルを所定の位置に固定します。

6. ロックナットを緩め、走行ハンドルアッセンブリーを再装着できる長さまで、ボールジョイントを廻して走行ロッドアッセンブリーの位置を調整します。ロックナットを締 めます。



7. ボールジョイントを走行ハンドルアッセンブリーに再接続します。

8. 本機をスタートしてテストします。両方の走行ハンドルを握りしめて、本機が双方向に移動するのを確認します。

9. リアカバーとバッテリー収納部のカバーを再装着します。

本機の輸送と保管

本機を輸送する

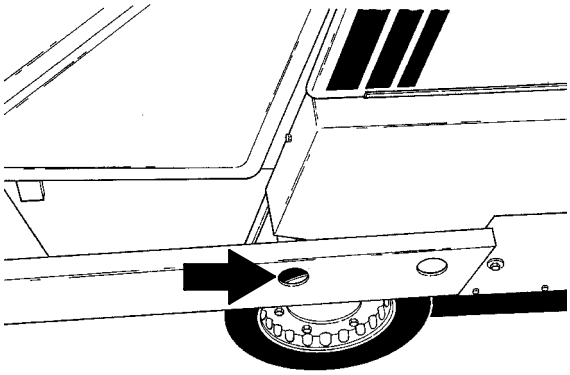
1. トラックかトレーラーの搭載エッジに本機を前向きにして置きます。

   安全のために： 本機の重量に対応できるトラックやトレーラーを使 ってください。

注記：本機を輸送する前に、ホッパーを空にしてください。

2. タイヤ止めで固定してください。輸送前に、本機をトラックやトレーラーに結びつけてください。

3. ひもをフロントにある穴に通してトラックやトレーラーに結び付け、本機のフロントを固定します。



03136

4. ひもを静止ハンドルの回りに巻きつけてトラックやトレーラーに結び付けて、本機のリアを固定します。

本機の保管

本機を長期間保管する場合は、さび、汚物など好ましくない付着物の形成を防ぐため次の手順を実行してください。

1. ゴミホッパーを空にします。

2. メインブラシとサイドブラシを上げます。

3. バッテリーの寿命を延ばすため、チャージャーを電源に差し込んだままにします。必ずバッテリー格納部のカバーを取り外してください。

⚠ 警告： 火災または爆発の危険。バッテリーは水素ガスを放出します。火花や炎を絶対に近づけないでください。充電中は、バッテリー格納部のカバーを開けたままにしてください。

4. 本機を平坦で乾いた場所に駐車します。

注意：本機は室内で保管し、雨には絶対にさらさないでください。

仕様

本機の一般寸法/容量

項目	寸法又は容量
全長	1570 mm (62 in)
最大の高さ	990 mm-1120 mm (39 in-44 in)
幅（サイドブラシなし）	920 mm (36.25 in)
トラック ー フロント	790 mm (31 in)
車輪ベース	595 mm (23.5 in)
メインブラシの幅	660 mm (26 in)
メインブラシの直径	255 mm (10 in)
サイドブラシの直径	430 mm (17 in)
サイドブラシ付きの清掃幅	860 mm (34 in)
ホッパー体積容量	0.08 m^3 (2.8 cu ft)
ホッパー重量容量	68 kg (150 lb)
総車輌重量	345 kg (760 lb)
ダストフィルター（ひだつきパネルフィルター）	4.55 m^2 (49 sq. ft)
騒音レベル（オペレータの耳元で）	76 dB(A)
走行制御ハンドルの振動レベル	0.6 m/s^2

本機の一般性能

項目	数値
旋回半径	1730 mm (68 in)
最大前進速度	4.7 Km/h (2.9 mph)
最大後進速度	4.5 Km/h (2.8 mph)
最大定格登坂角度	8°/14%
最大定格降坂角度	6°/10.5%

動力タイプ

システム	駆動タイプ
走行	ベルトからチェーン
ディフレンシャル	ベルト
車輪駆動	チェーン
メインブラシ	ベルト
サイドブラシ	ベルト
バキュームファン	ベルト

タイプ	VDC	amp	Hz	フェーズ	VAC
チャージャー：自動 / 選択可能 AC 電圧入力	24	11	50/60	1	100-240

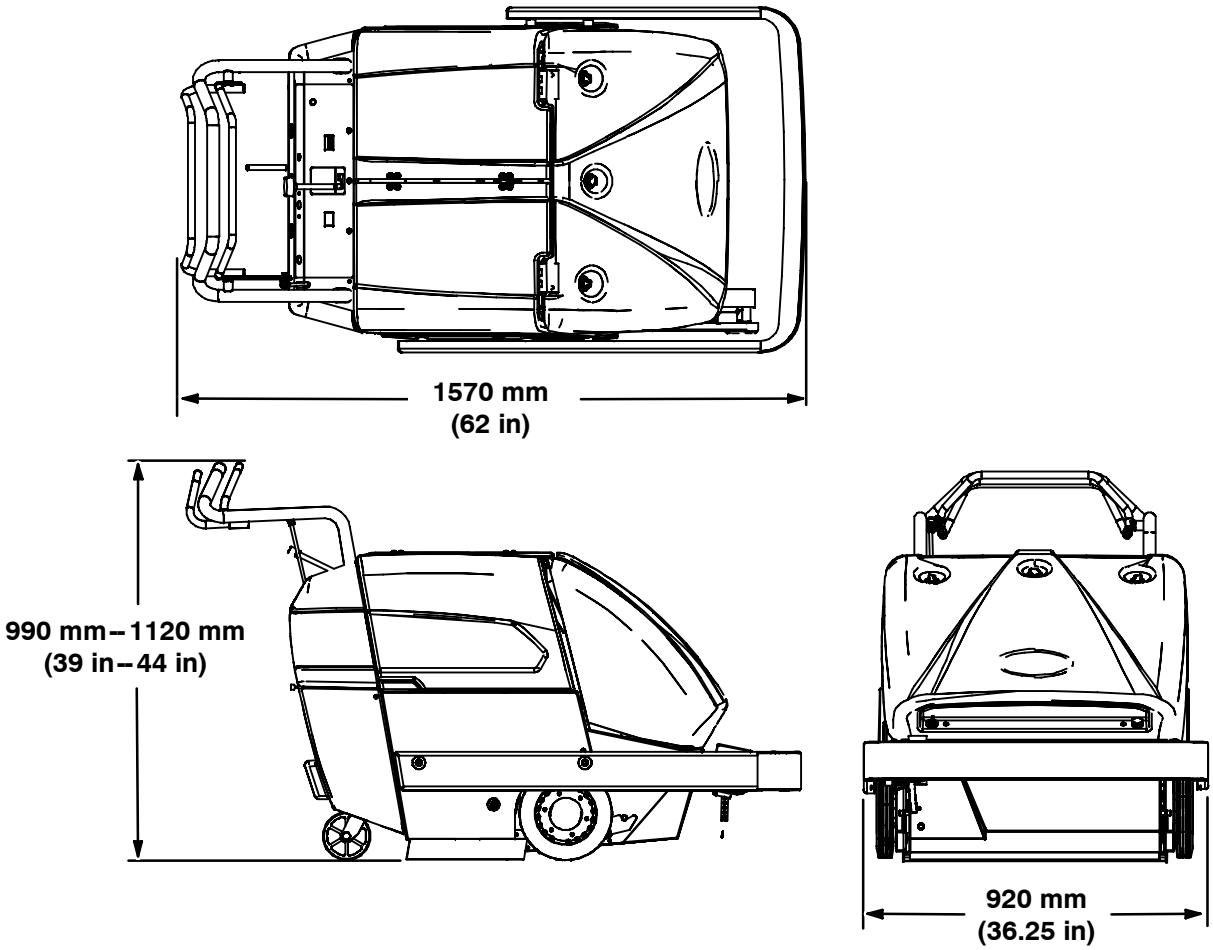
タイプ	使用	VDC	kW (hp)
電気モーター	走行	24	0.75 (1)

タイプ	数量	ボルト	Ah 定格	重量
バッテリー	2	12	155 @ 20 hr レート	38 kg (83 lb)

タイヤ

位置	タイプ	サイズ
前輪 (2)	ソリッド	250 mm x 51 mm (10 in x 2 in)
後輪 (1)	ソリッド	130 mm x 38 mm (5 in x 1.5 in)

本機の寸法



03131